

アサーティブ・コミュニケーションに及ぼすアサーション・トレーニングの効果 The Effect of Assertion Training on Japanese EFL learners' Assertive Communication

伊 東 武 彦 (大妻女子大学)

1. 研究の目的

アサーティブ・コミュニケーション (Assertive Communication、以下 AC) とは、互いを尊重し、双方の意見の違いの中から歩み寄って相互に納得できる結果を導き出そうとするコミュニケーションのあり方である。AC の思想は、1970 年代のアメリカの女性解放運動の中から誕生した。それまで「第 2 の性」として自分を男性の次においてきた女性たちが、自分自身のために生きることを意識し始めたことが始まりである。AC では自己主張のあり方を 3 種類に分類する。1) Aggressive: 自分のことだけを考え、他人の気持ちを顧みない自己主張、2) Non-assertive: 他人を優先し、自分のことを後回しにする自己主張、3) Assertive: 自分のことも考えるが、相手にも十分に配慮する自己主張。AC は、3) の自己主張のあり方を理想として、「自分の要求や意見を、相手にも尊重しつつ、誠実に、率直に、対等に表現する」ことを目標とし、心理的スタンスの学習と言語技術の習得を推進する。

AC の実践はこれまで母語教育の分野に限られ、外国語教育における研究例は見られない。しかし以下の 2 点から、わが国の英語教育において AC の教育法を研究する意義は高いと考えられる。1) 日本人は他律的コミュニケーション志向が強く、自分の意思や感情を明確に伝えることに苦手意識を持つ。2) 特に英語によるコミュニケーションの場では、英語の使用と主張的な英語文化の人々を相手にすることの 2 重のハンディにより一段と非主張的な傾向が強くなる。これらは異文化間コミュニケーション上の大きな課題でもあり、英語による AC 能力育成は日本の英語教育がめざすべき到達目標の 1 つであると考えられる。

本研究では、大学生を被験者として以下の 3 点を研究目的とする。1) 日本語と英語のコミュニケーションにおけるアサーティブの得点比較、2) AC 能力を向上させるアサーション・トレーニングの開発、3) アサーション・トレーニングの効果測定と有効性の検討。

2. 仮説

- I 被験者の日本語と英語のコミュニケーションにおけるアサーティブの得点を比較すると、英語における得点の方が低いであろう。
- II 英語のアサーション・トレーニングを実施することにより、被験者のアサーティブの得点は上昇するであろう。

3. 方法

- 1) 事前テストとして、SCAT (Suganuma Comicstrip Assertion Test) の日本語バージョンと英語バージョンを用いる。SCAT は各回答を、3 種類のコミュニケーション・スタイル (アサーティブ、ノンアサーティブ、アグレッシブ) に峻別する。この結果により、日英それぞれのコミュニケーションにおけるアサーティブの得点を比較する。また、英語バージョンの結果は、被験者をアサーティブ型とノンアサーティブ型の 2 つのグループに分類し、アサーション・トレーニング後の事後テストにより、グループごとの効果が測定される。

9月9日(金) 研究発表2 第5室(343)

- 2)アサーション・トレーニングを実施する。7つの言語機能「依頼を断る」「反対する」「賞賛する」「アドバイスする」「依頼する」「勧誘する」「希望を述べる」を扱う。言語機能ごとに4つの段階を取る。①教師は状況を提示し、心理的スタンスについて被験者に話し合わせる。②その状況に合ったアサーティブな対応を、被験者に英語で考案させる。③教師は、アサーティブな英語表現の具体例を提示して解説する。この具体例には2つの要素が含まれる：i)言語機能の基本的表現、ii)アサーション方略。④被験者は、提示された具体例を参考にして自己案に修正を加えた後ロールプレイする。
- 3)事後テストとして、SCATの英語バージョンを用いる。結果を事前テストと比較することにより、アサーション・トレーニングの効果を測定し、有効性を検討する。

4. 結論

1)結果

表1：事前テストにおける日英バージョン得点比較 (n=64)

Communication Style	Japanese version	English version	t-test
Assertive	11.56	11.16	ns
Non-assertive	6.69	6.98	ns
Aggressive	1.75	1.86	ns
Total	20.00	20.00	ns

ns: not significant

表2：事前テストと事後テストにおける英語バージョンの得点比較 (n=64)

Communication Style	Pre-test	Post-test	t-test
	English version	English version	
Assertive	11.16	13.36	**
Non-assertive	6.98	4.91	**
Aggressive	1.86	1.73	ns
Total	20.00	20.00	

* p<.05 ** p<.01, ns: not significant

2)考察

事前テストにおけるSCAT日英バージョンの得点比較の結果、両者間には有意な差は見られず、仮説Ⅰは棄却された。しかし、テスト時に実施したアンケート調査への回答から、英語によるアサーティブ・コミュニケーションに消極的になる主要因は、英語による自己表現技能の欠如にあることが示唆された。

事前テストと事後テストに用いたSCAT英語バージョンの得点比較の結果、事後テストではアサーティブ得点が上昇し、ノンアサーティブ得点が減少した。それぞれに有意差が確認され、仮説Ⅱは証明された。アンケート調査には「心理的スタンスや英語文化を考慮して答えた結果、自然とアサーティブになった」などの回答が寄せられ、アサーション・トレーニングの効果を補足説明した。その一方で、「頭では理解できても、現実のコミュニケーションの場面で実践しないと定着しない」との声も聞かれた。アサーション・トレーニングは被験者のアサーティブ・コミュニケーション能力の育成に一定の効果を及ぼし、対人関係を考慮して適切に自己主張する方法について考える機会を学生に提供したと思われる。